

日時 12月16日(金) 13:30~16:30

テーマ 高等学校における特別支援教育②

講師 明星大学講師 中田 正敏 氏



第 12 回公開講座は、京都府スーパーサポートセンター SSC ラボで実施しました。雪が舞う中、高等学校、中学校、小学校、特別支援学校、医療、行政など幅広い参加者がありました。今回は、明星大学講師の中田正敏先生による二回目の講座でした。中田先生は神奈川県立田奈高等学校の校長をされた後、文部科学省中央教育審議会他の委員をされ、かながわ生徒・若者支援センターの代表でもあります。



講義では、高等学校における特別支援教育では、各学校に応じた効果的な指導体制を工夫すること、組織改革が重要であることを述べられました。教職員や生徒が対話から互いに学び合うことができるような学校を組織的に発展させること、「廊下での対話」や「アイデア会議」などの創造的な環境づくりポイントだとお話しされました。

また、学習支援ではアクティブ・ラーニング、ICF（国際生活機能分類）、合理的配慮、ユニバーサルデザインはそれぞれつながっていることや、生徒指導と教育相談の間の壁を小さくすることでより一層効果が得られるという話題では、多くの受講者がうなずきながら聞いておられました。「対話による支援」については、具体的な事例・

エピソードを交えて話していただき、大変わかりやすいお話しでした。

最後は平成 30 年度から施行される高等学校における通級の制度化についても触れられ、最新情報も紹介していただきました。通級による指導は、通常の学級で行われる障害の状態等への配慮のみでは不十分な場合に行われるものであり、通常の学級における授業で効果が発揮されることが期待されています。通級による指導は障害のある生徒を特別な場に追いやるということではなく、インクルーシブ教育の理念を具現化するものだという考え方は教育現場の私たちが忘れてはならないことです。中田先生が、通級においてもやはり「対話」が重要だと強調されたのが印象的でした。二回をとおして内容の充実した実りある講座となりました。

＜参加者アンケートより 感想（一部抜粋）＞

- ・お子さんの具体的なエピソードが身近に感じられてわかりやすかった。
- ・高等学校の通級の制度化について最新の動向を知ることができて良かった。
- ・アクティブ・ラーニングと合理的配慮、ユニバーサルデザインの関係が整理され、納得がいった。
- ・学習支援、生徒指導支援、キャリア支援とが整理されて大変わかりやすかった。
- ・風通しの良い職場づくりのための具体的な取組がよく理解できた。
- ・つつい生徒に目が行くが、教師間の組織化が必要だということが印象的だった。

第 13 回公開講座は、＜冬の府民講座＞「思春期・青年期における発達障害の理解と支援」です。宇部フロンティア大学の小栗正幸先生をお迎えし、京都市呉竹文化センターで行います。日時は平成 29 年 1 月 28 日(土) 13:30~16:30 です。どなたでもご参加できます。お申し込みはこのホームページからできます。ぜひ御参加ください。